

2019年3月期 第2四半期決算説明会

長瀬産業株式会社
2018年11月30日

本日のサマリー

■2019年3月期 第2四半期決算実績

- 売上・各利益ともに前期に引き続き伸長
- 製造・加工事業が伸長し、全社の成長を大きく牽引(不採算事業からの撤退も寄与)
- 中期経営計画「**ACE-2020**」のもと実行してきた施策が着実に利益貢献

■2019年3月期 通期見通し

- 米中貿易摩擦等、外部環境の不透明感もあり景況感に留意
- 期初に公表した見通しベースで順調に推移
- 不採算事業の収益改善が利益貢献

■中期経営計画「**ACE-2020**」の進捗

- 注力領域への投資を加速
- 中長期的な成長を見据え、育成領域への施策を着実に実行
- 中期経営計画「**ACE-2020**」のローリングを実施
- ガバナンス強化・中長期的な成長を目指し、海外地域統括機能の見直しを開始

目次

2019年3月期 第2四半期決算概況	P. 4
2019年3月期 通期業績見通し	P. 15
中期経営計画「 ACE-2020 」の進捗	P. 20
林原の事業戦略について	P. 24
(参考資料)セグメント別概況	P. 39

2019年3月期 第2四半期決算概況

連結損益計算書

■売上高：基盤領域(機能素材・加工材料)を中心に好調に推移したことにより、全体として増収

■営業利益：増収に加え、製造子会社における収益性の改善等により、増益

(単位:億円)

	17/09	18/09	増減額	前年同期比	通期見通し
売上高	3,875	4,044	+ 169	104%	8,280
売上総利益	502	529	+ 26	105%	1,073
<利益率>	13.0%	13.1%	+0.1%	—	13.0%
販売費及び一般管理費	376	394	+ 18	105%	818
営業利益	126	134	+ 8	107%	255
経常利益	138	139	+ 1	101%	275
親会社株主に帰属する 四半期純利益	87	103	+ 15	118%	186
US\$レート (期中平均)	@ 111.0	@ 110.3	@ 0.8 円高		@105
RMBレート (期中平均)	@ 16.4	@ 16.7	@ 0.3 円安		@ 16.5

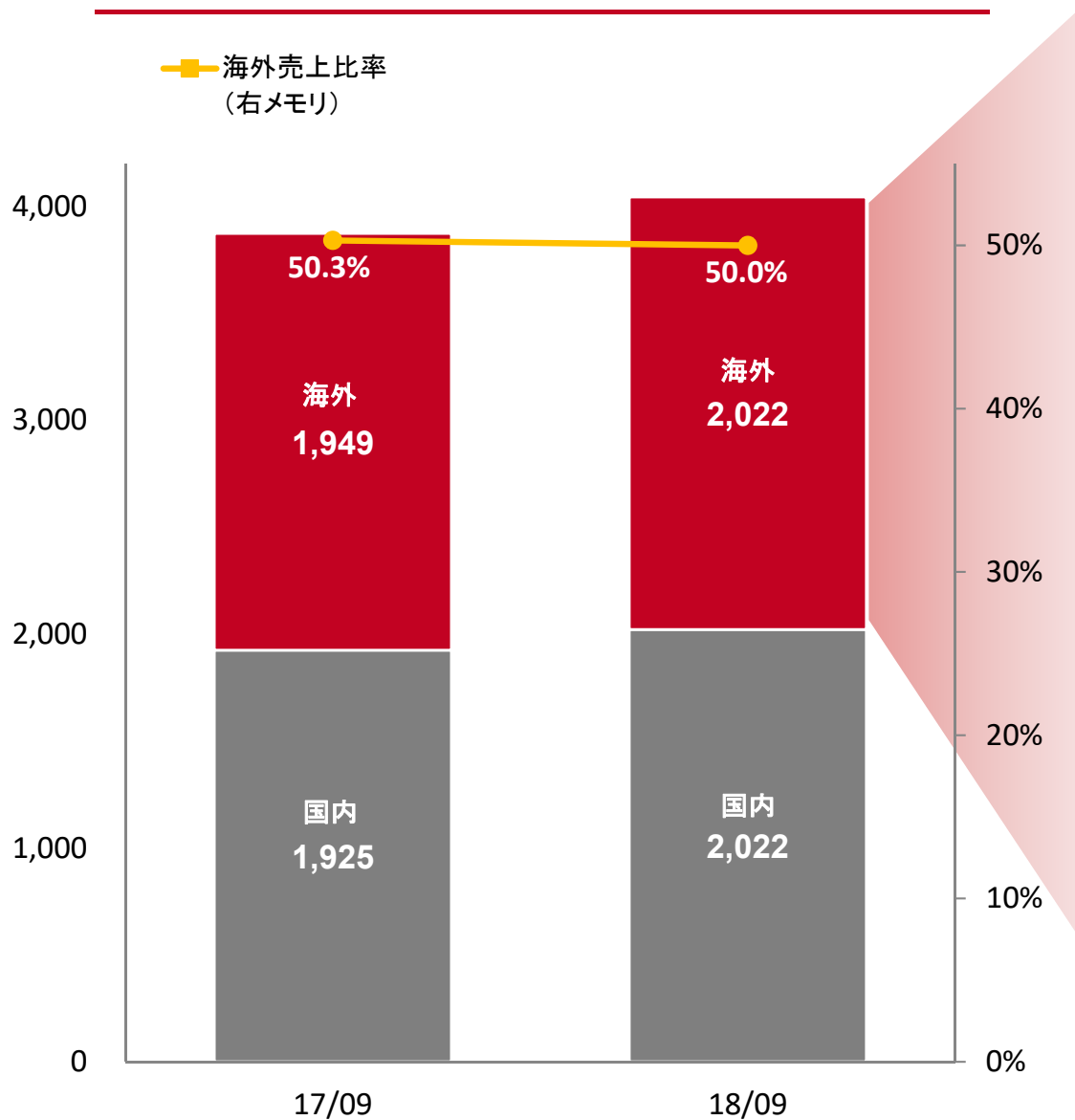
【為替変動による18/09期実績 売上高および営業利益への影響額】
 売上高:約+14億円 営業利益:約+0.6億円

【1円変動当たり影響額】
 売上高 US\$: 約9億円 営業利益 US\$: 約0.4億円
 RMB: 約40億円 RMB: 約1.2億円

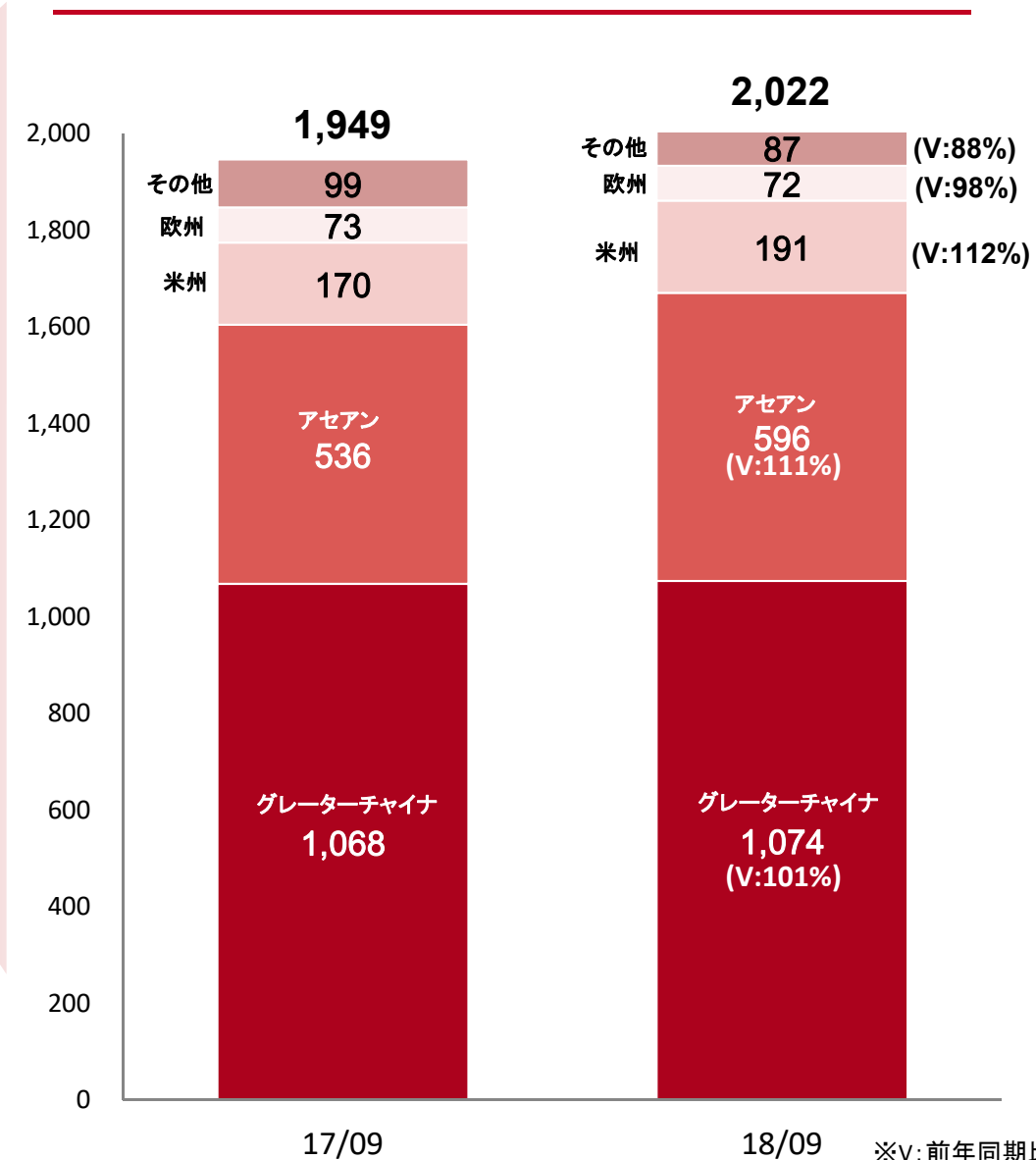
地域(国内・海外)別売上高

■国内事業に加え、アセアンおよび米州を中心に海外事業が好調に推移(海外売上比率50.0%)

国内・海外売上高(億円、%)



海外売上高の地域別内訳(億円、%)



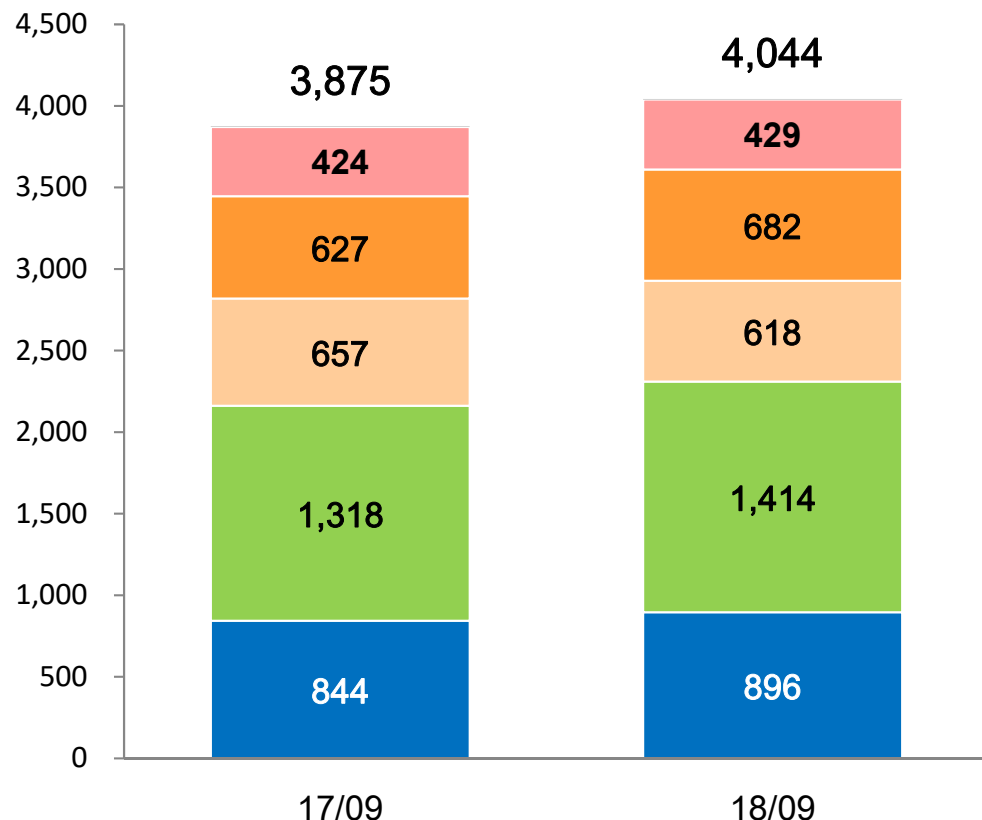
※V: 前年同期比

セグメント別売上高2期比較

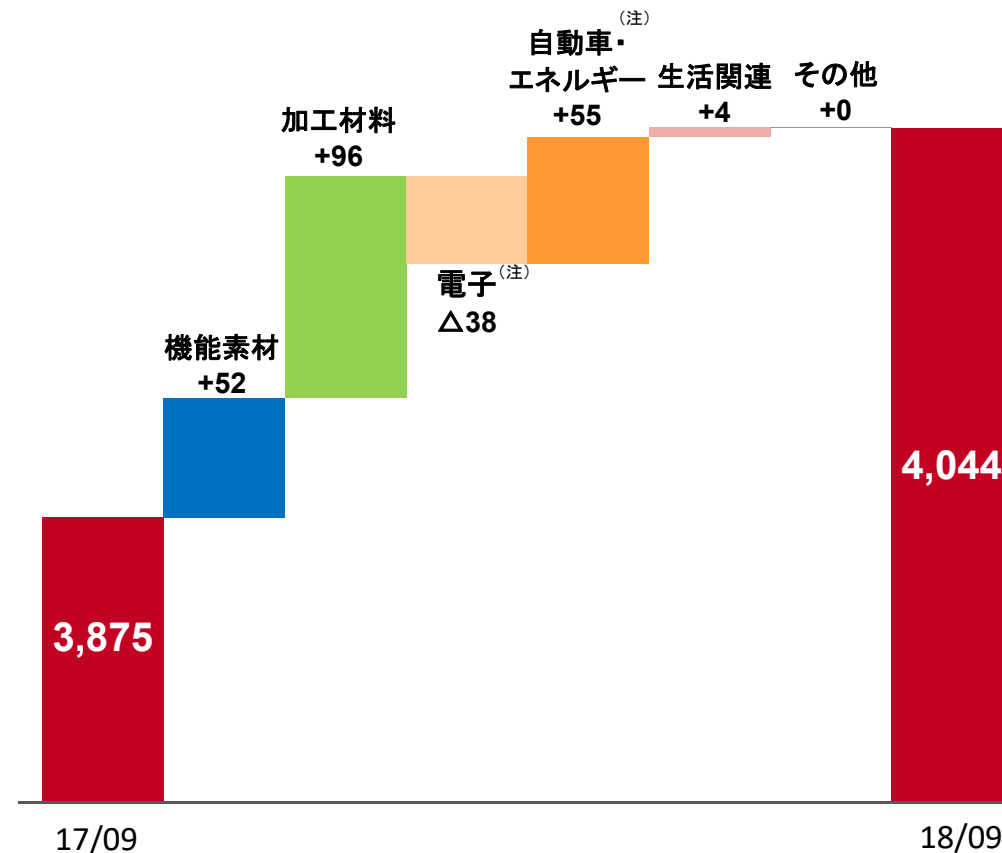
- 機能素材：自動車生産台数の堅調な推移およびナフサ価格の上昇等により、塗料およびウレタン原料の売上が増加、またエレクトロニクスケミカル等の売上が増加し、更に前第2四半期連結会計期間中に米国のディストリビューターを買収したこと等もあり、増収
- 加工材料：国内外において、合成樹脂および情報印刷関連材料等の売上が増加し、増収

セグメント別 売上高（億円）

■機能素材 ■加工材料 ■電子 ■自動車・エネルギー ■生活関連 ■その他



セグメント別 売上高 増減（億円）



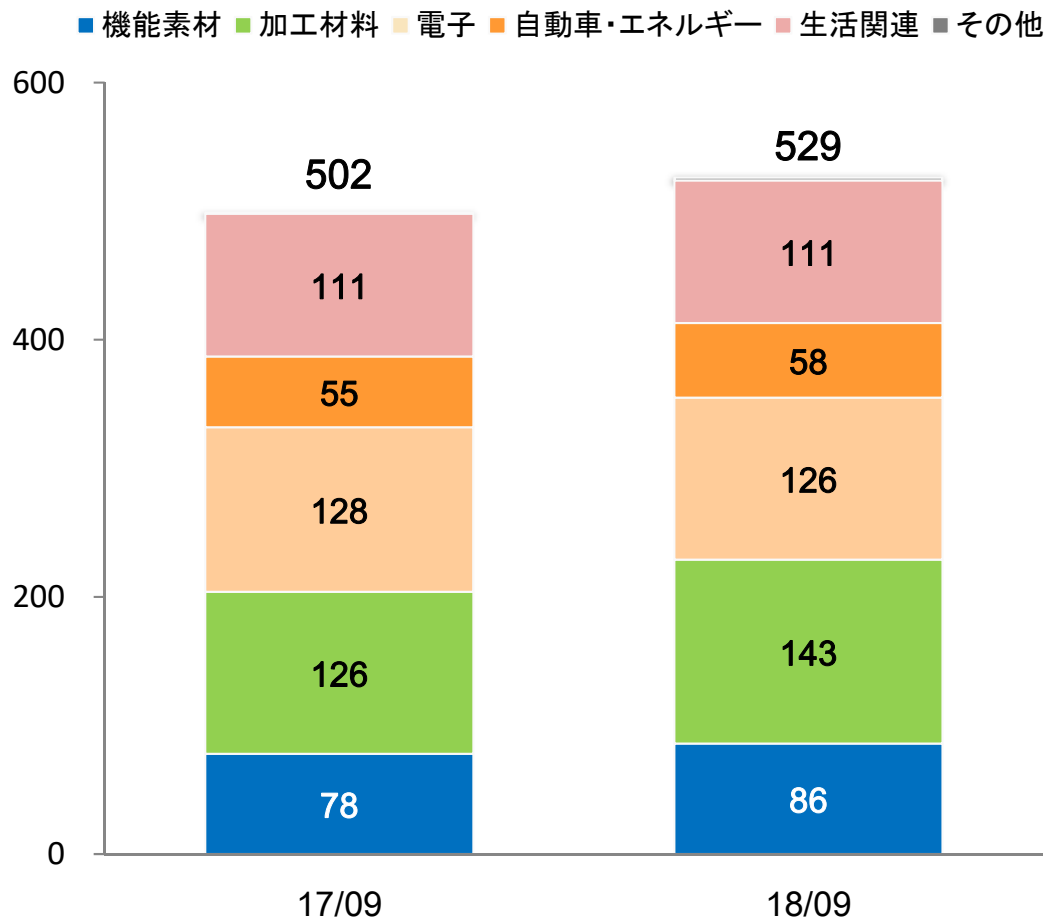
※当期においてセグメント区分の変更を行っており(機能素材の一部を生活関連へ)、17/09の実績値については、当該変更後の区分に組替えて記載しております。

(注) 電子セグメントのカーエレクトロニクス関連ビジネスを自動車・エネルギーセグメントへ移管しており、当該移管の影響を除いた場合、電子セグメントは概ね前年並みとなります。

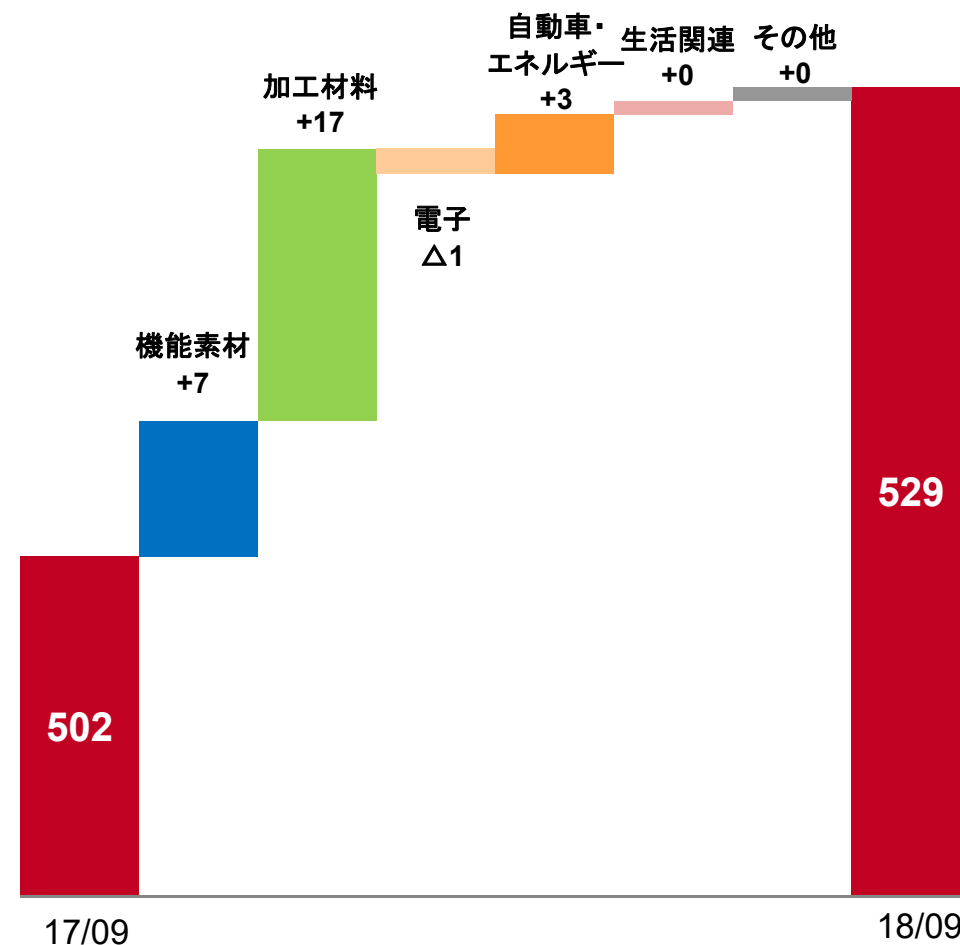
セグメント別売上総利益2期比較

■増収の影響を受け、増益

セグメント別 売上総利益 (億円)



セグメント別 売上総利益 増減 (億円)



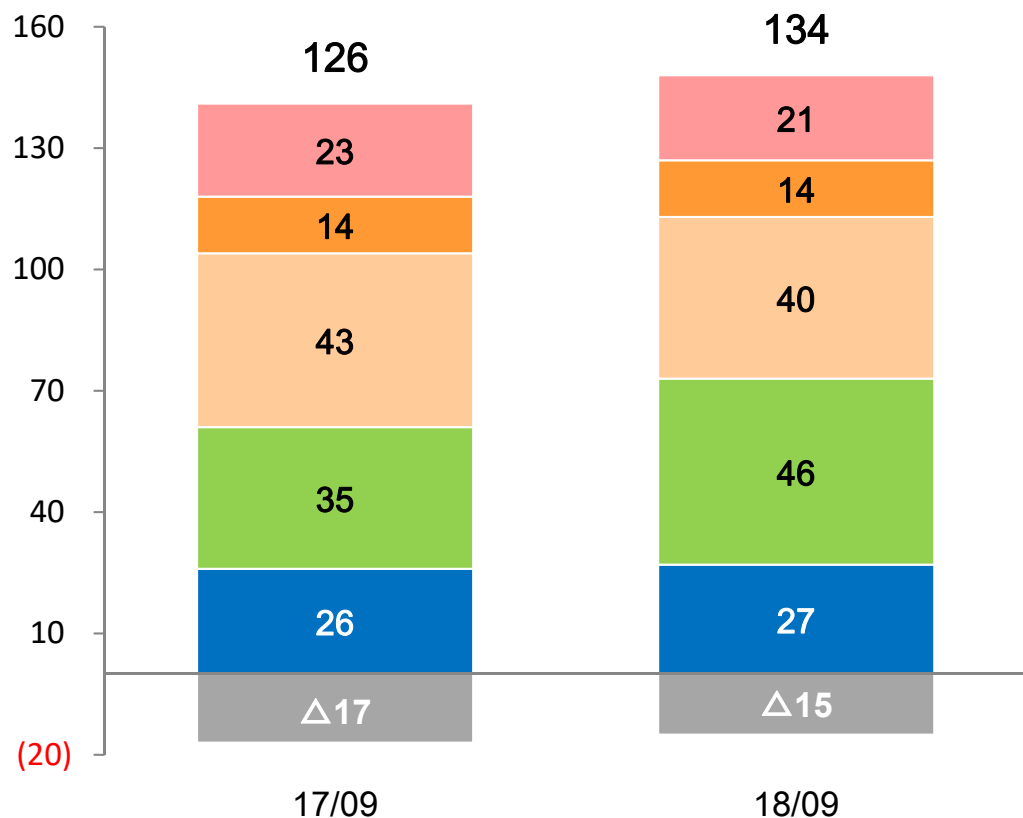
※当期においてセグメント区分の変更を行っており(機能素材の一部を生活関連へ)、17/09の実績値については、当該変更後の区分に組替えて記載しております。

セグメント別営業利益2期比較

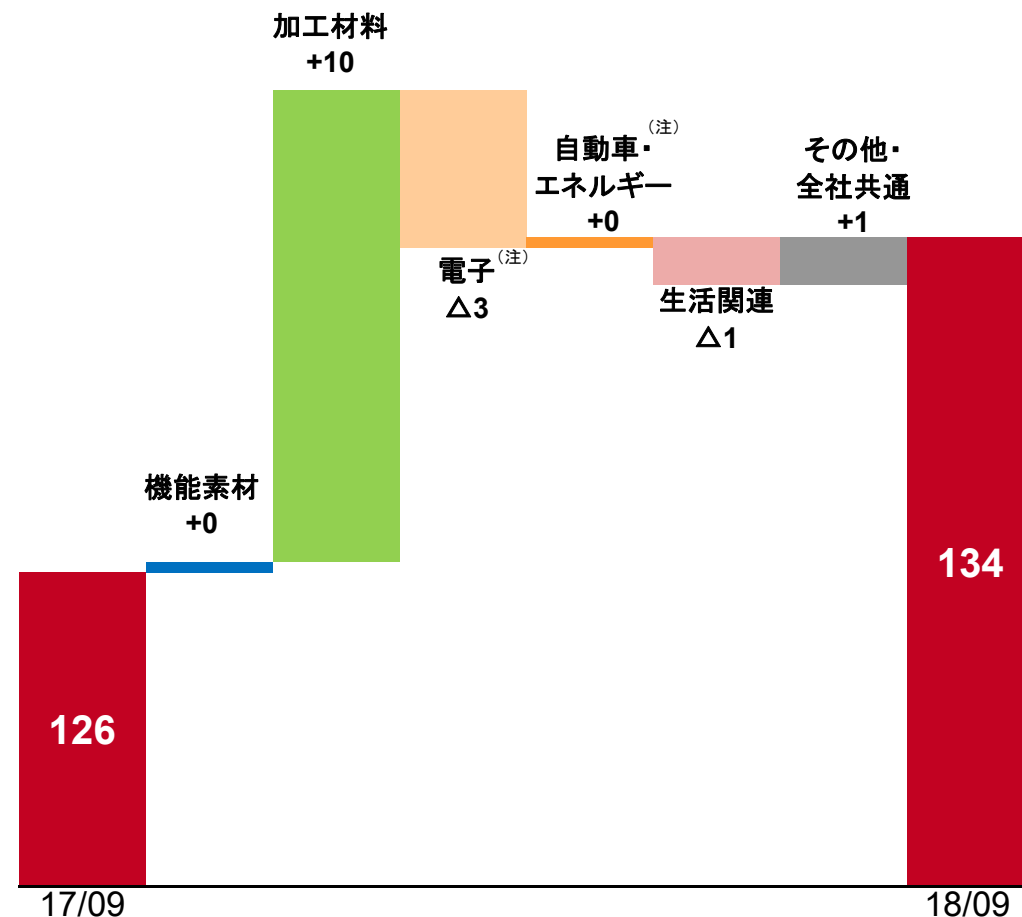
■加工材料:増収に加え、国内外の製造子会社の収益性の改善等により、増益

セグメント別 営業利益 (億円)

■機能素材 ■加工材料 ■電子 ■自動車・エネルギー ■生活関連 ■全社・その他



セグメント別 営業利益 増減 (億円)



※当期においてセグメント区分の変更を行っており(機能素材の一部を生活関連へ)、17/09の実績値については、当該変更後の区分に組替えて記載しております。

(注) 電子セグメントのカーエレクトロニクス関連ビジネスを自動車・エネルギーセグメントへ移管しており、当該移管の影響を除いた場合、電子セグメントは微減となります。

主な連結子会社等の業績

■ナガセプラスチックスは、前期獲得した新たな国内商権が好調に推移したこと等により、増収増益

■Nagase (Thailand) Co., Ltd.は、自動車業界向けエンジニアリングプラスチックの販売等が好調に推移し、増収増益

(単位:億円)

社名		売上高	前年同期比	営業利益 ^(注2)	前年同期比
製造会社	林原	126	104%	25	97%
	ナガセケムテックス	132	103%	16	118%
	製造会社計 ^(注1)	537	105%	60	110%
国内販売会社	ナガセプラスチックス	185	107%	5	120%
	西日本長瀬	42	109%	2	124%
	ナガセエレックス	52	100%	1	124%
	国内販売会社計 ^(注1)	465	104%	14	109%
海外販売会社	Nagase (Thailand) Co., Ltd.	197	107%	6	112%
	上海華長貿易有限公司	196	100%	6	117%
	上海長瀬貿易有限公司	232	110%	5	105%
	海外販売会社計 ^(注1)	1,954	106%	49	103%

※(注1) 各カテゴリの合計は、対象会社の単純合算値であり、連結決算数値と一致いたしません。

※(注2) 営業利益は、のれん及び技術資産等の償却前の数値となります。

主要製造子会社2社の状況

- 林原:トレハ®の売上は横ばいとなったものの、AA2G®に加え林原ヘスペリジン®Sおよびファイバリクサ®等の売上が増加し、増収。利益面においては、原材料費の上昇に加え、成長に向けた販売体制強化等による費用の増加もあり、微減
- ナガセケムテックス:顧客稼働率低下等の影響により、フォトリソ材料事業の売上は減少したものの、エポキシ樹脂および機能化学品事業等が好調に推移し、増収増益

林原

(単位:億円)

	17/09	18/09	増減額	前年同期比
売上高	121	126	+5	104%
営業利益	26	25	▲0	97%

- ・トレハ®は、国内において主食(製パン等)分野向けに販売が好調に推移したものの、海外における在庫調整等もあり、売上は横ばい
- ・AA2G®は、国内はインバウンド需要、海外は新規顧客開拓等もあり、増収
- ・林原ヘスペリジン®Sおよびファイバリクサ®等の高機能素材商品が食品業界向けに新規採用が進み、増収
- ・医療・健康食品用ハードカプセルおよび口中清涼フィルム向けにプルランの売上が増加
- ・原材料費の上昇に加え、成長に向けた販売体制強化等による一般管理費の増加もあり、営業利益は微減

ナガセケムテックス

(単位:億円)

	17/09	18/09	増減額	前年同期比
売上高	129	132	+3	103%
営業利益	14	16	+2	118%

- ・エポキシ樹脂事業は、スマホに搭載される電子部品封止用をはじめ、重電・弱電向け等に好調に推移し、増収
- ・フォトリソ材料事業は、顧客稼働率低下等の影響により、減収(下期、新規ビジネスが立ち上がる見通し)
- ・機能化学品事業は、LCD業界向け導電性材料および3Dプリンター・タイヤ用途にエピクロ誘導体の販売が好調に推移し、増収
- ・生化学品事業は、健康食品および食品業界向け放線菌由来の酵素等の販売が好調に推移し、増収

連結貸借対照表

- 資 産: 売掛金・たな卸資産の増加および保有株式の時価上昇による投資有価証券の増加等により、238億円増加
- 負 債: 短期借入金やCPの増加等により、133億円増加
- 純資産: 親会社株主に帰属する四半期純利益103億円の計上のほか、その他有価証券評価差額金の増加等により、105億円増加
- 自己資本比率は、0.3ポイント減少し、53.0%

資 産				負債及び純資産				(単位: 億円)
	18/03	18/09	増減額		18/03	18/09	増減額	
流動資産	3,533	3,713	+ 180	流動負債	1,929	2,155	+ 225	
現金・預金	433	401	△ 31	支払手形・買掛金	1,180	1,195	+ 15	
受取手形・売掛金	2,259	2,377	+ 117	借入金・CP・1年内償還予定の社債	480	714	+ 234	
たな卸資産	736	830	+ 93	その他	269	245	△ 24	
その他	103	103	+ 0	固定負債	676	583	△ 92	
固定資産	2,161	2,219	+ 58	長期借入金・社債	379	283	△ 95	
有形固定資産	672	686	+ 14	退職給付に係る負債	145	133	△ 11	
無形固定資産	410	393	△ 17	その他(繰延税金負債等)	152	166	+ 14	
投資・その他の資産合計	1,078	1,139	+ 61	負債合計	2,606	2,739	+ 133	
投資有価証券	1,004	1,066	+ 62	純資産	3,088	3,193	+ 105	
その他	74	73	△ 0	株主資本	2,502	2,572	+ 69	
				その他の包括利益累計額	533	573	+ 39	
				その他有価証券評価差額金	507	530	+ 22	
				為替換算調整勘定	29	44	+ 15	
				その他	△ 3	△ 1	+ 1	
				非支配株主持分	51	48	△ 3	
資産合計	5,694	5,933	+ 238	負債及び純資産合計	5,694	5,933	+ 238	

キャッシュ・フローの状況

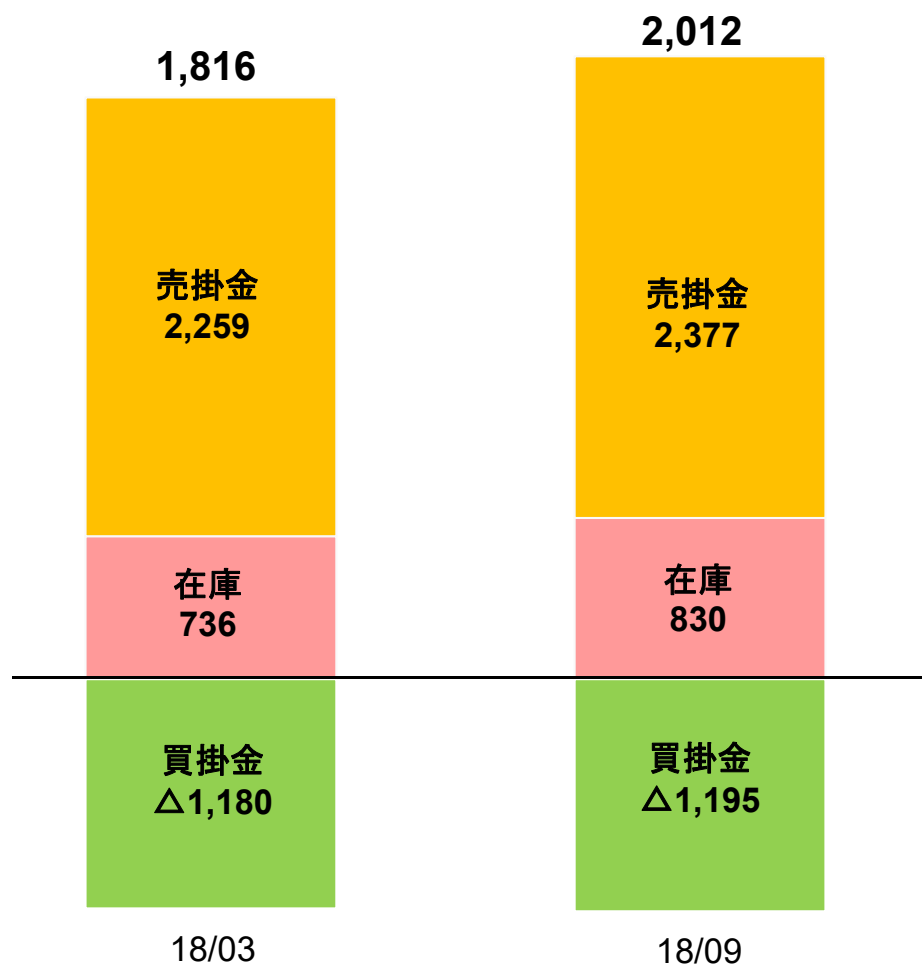
(単位: 億円)

	18/09	主な内訳	17/09
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲ 39	税金等調整前四半期純利益 +138 減価償却費 +46 運転資金の増減 ▲184 法人税等の支払 ▲27	65
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 84	有形・無形固定資産の取得による支出 ▲68 投資有価証券の取得による支出 ▲16	▲ 102
財務活動によるキャッシュ・フロー	89	短期借入金の増減 +109 コマーシャル・ペーパーの増減 +20 配当金の支払 ▲28	73
現金および現金同等物に係る換算差額	5		4
現金および現金同等物の増加額(▲減少額)	▲ 28		40
現金および現金同等物の期首残高	428	日本 227、グレーターチャイナ117、アセアン 46、欧州 32、米州 4	397
現金および現金同等物の四半期末残高	400	日本 217、グレーターチャイナ 106、アセアン 44、欧州 26、米州 4	438

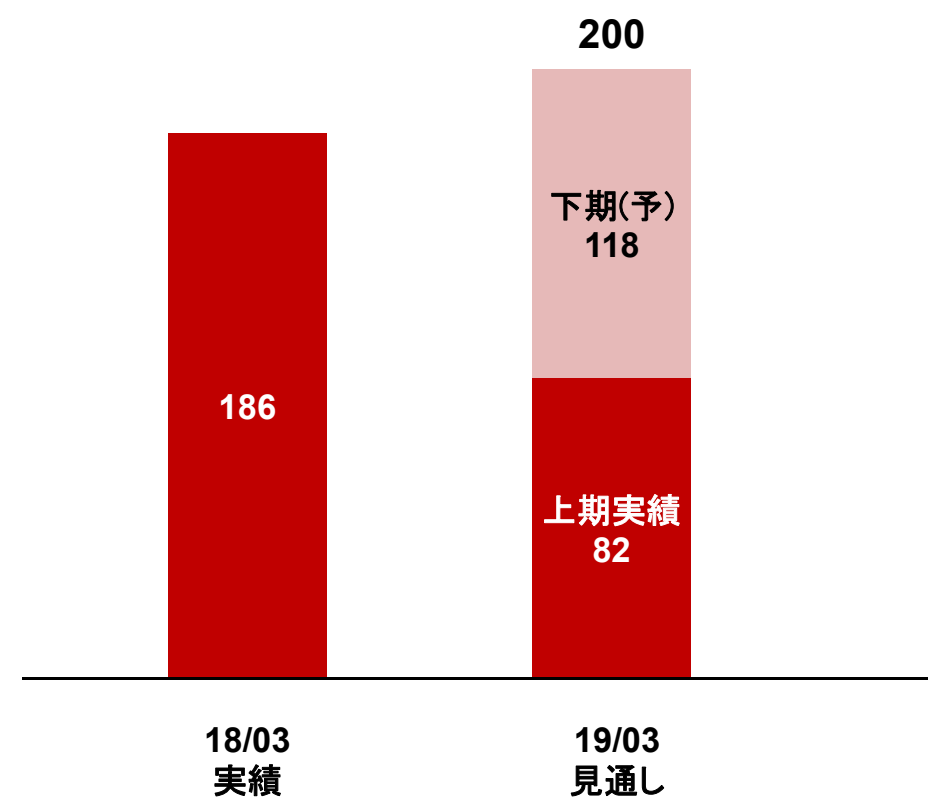
運転資金および投資額について

■売上の増加に加え、一部業界において供給タイトな状況が続いており、継続的に供給すべく在庫を政策的に積み増し。
その結果として、運転資金が増加

運転資金（億円）



投資額（億円）



2019年3月期 通期業績見通し

2019年3月期 業績見通し

■米中貿易摩擦など世界情勢において不透明な状況が続いているが、中期経営計画「ACE-2020」における施策が貢献する等、下期も堅調に推移し、全体として増収増益見通し

(単位:億円)

	18/03実績	19/03見通し	増減額	前期比
売上高	7,839	8,280	+440	106%
売上総利益	1,026	1,073	+46	105%
<利益率>	13.1%	13.0%	△0.1%	—
販売費及び一般管理費	785	818	+32	104%
営業利益	241	255	+13	106%
経常利益	259	275	+15	106%
親会社株主に帰属する当期純利益	171	186	+14	108%
US\$レート (期中平均)	@110.9	@105	5.9円高	—
RMBレート (期中平均)	@16.7	@16.5	0.2円高	—

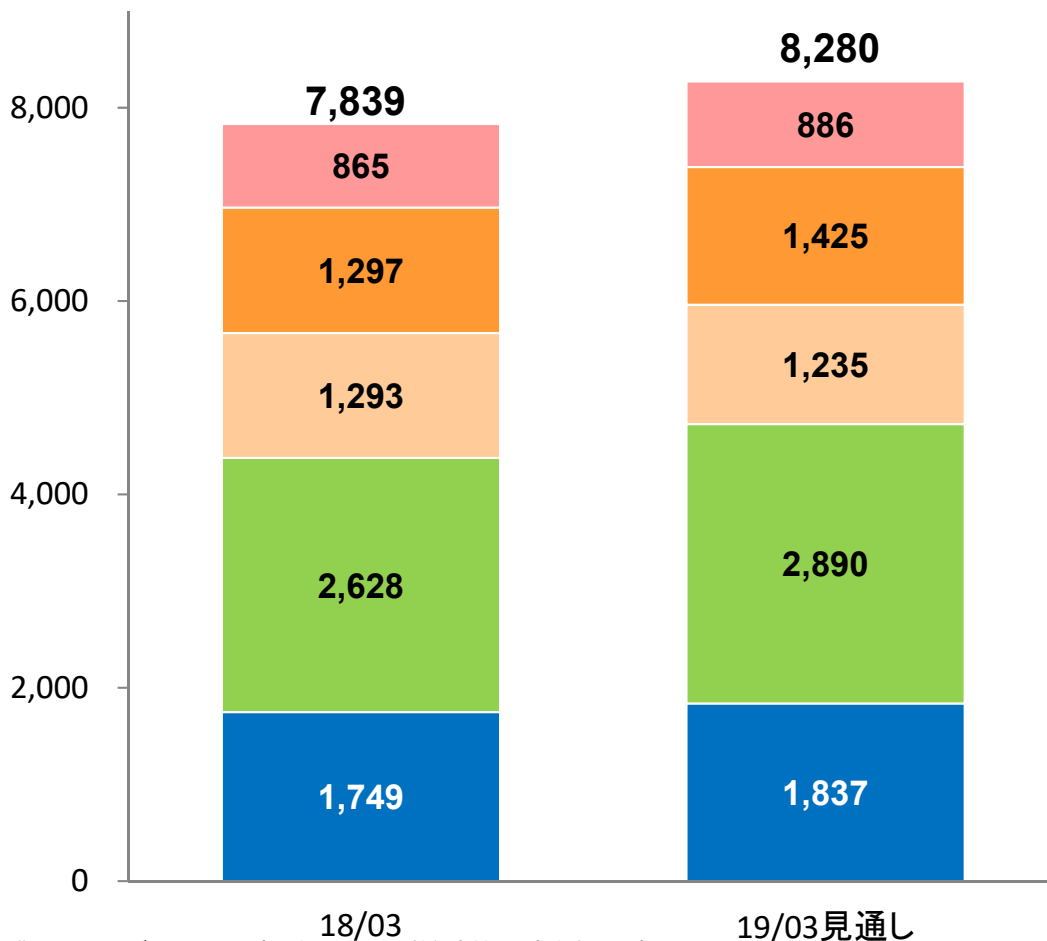
セグメント別売上高見通し

■加工材料:下期も引き続き、新規商権(新エリア・新サプライヤー)が拡大し、加えて情報印刷関連材料等の売上も増加し、増収見通し

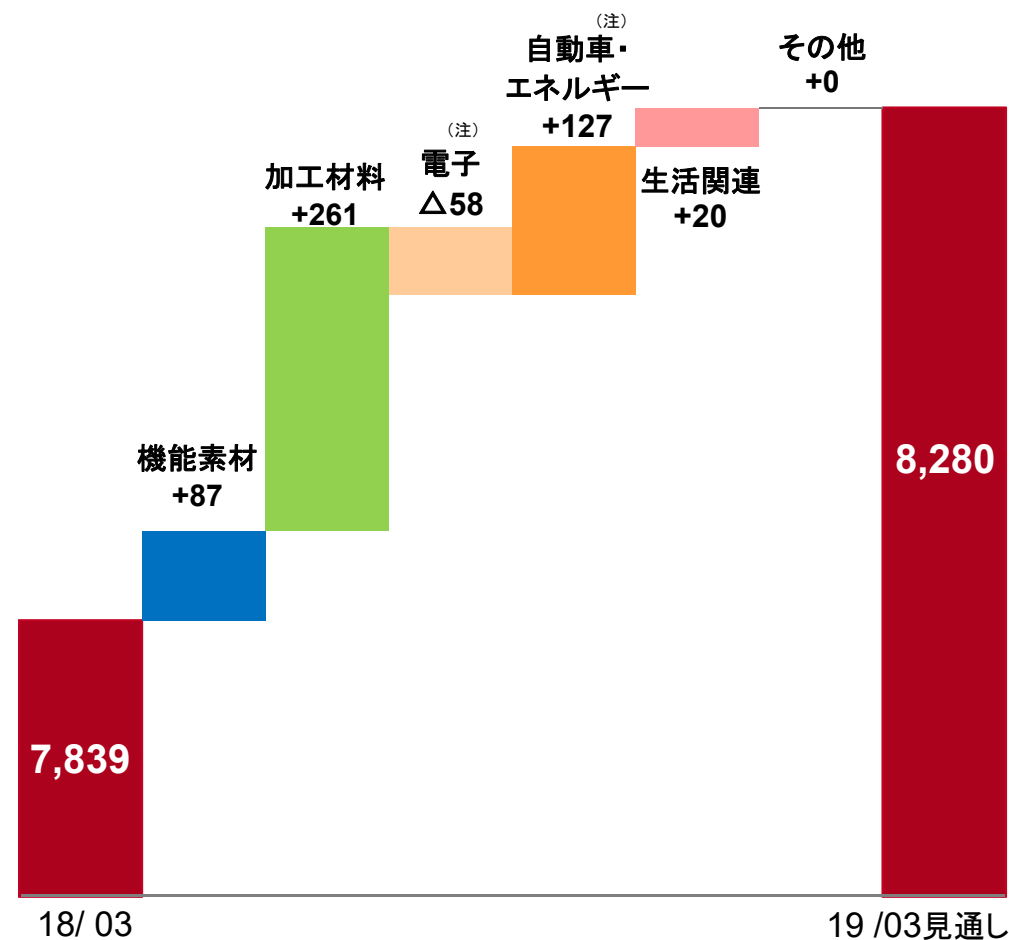
■自動車・エネルギー:自動車生産台数の増加および自動車の自動・電動化の需要を取り込み、下期も引き続き、国内外で高性能材料およびカーエレクトロニクス関連部材の販売が好調に推移し、増収見通し

セグメント別 売上高 (億円)

■機能素材 ■加工材料 ■電子 ■自動車・エネルギー ■生活関連 ■その他



セグメント別 売上高 増減(億円)



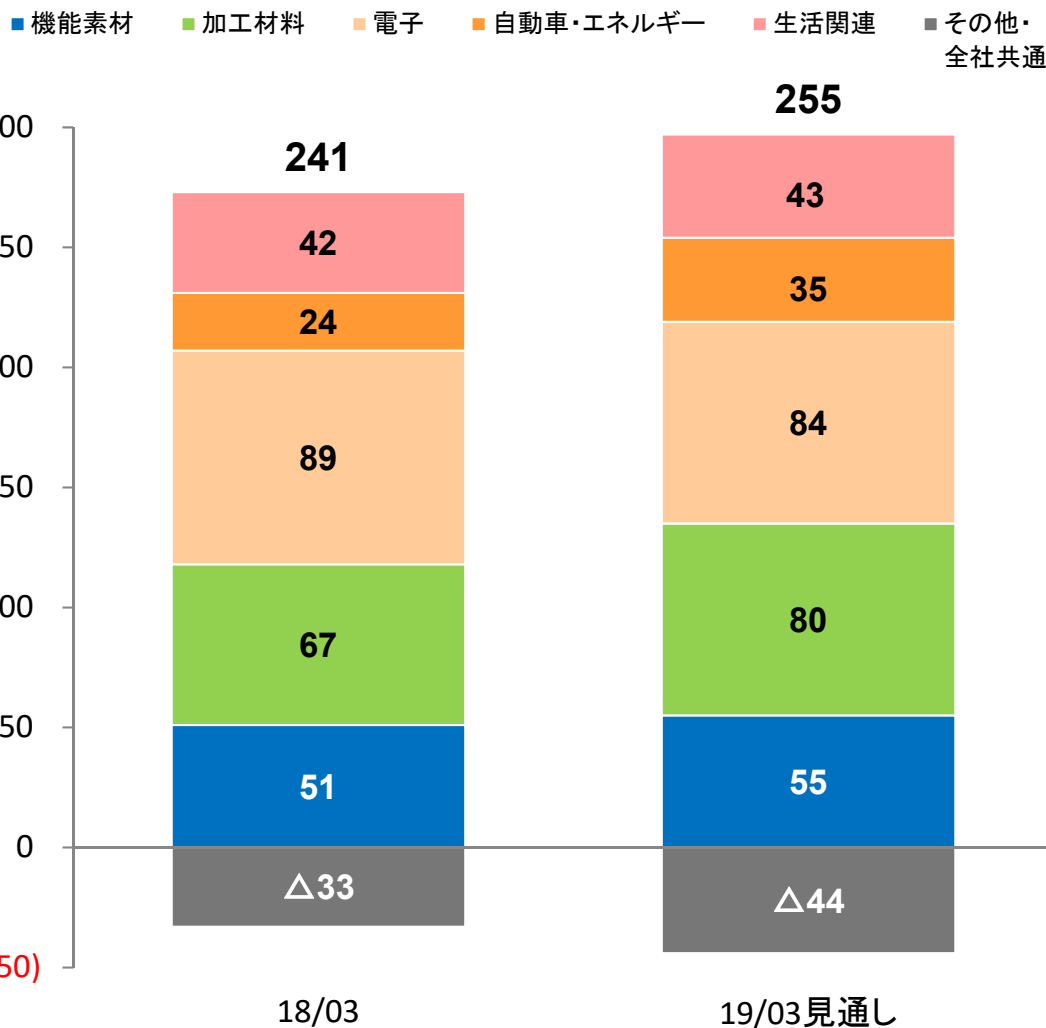
※当期においてセグメント区分の変更を行っており(機能素材の一部を生活関連へ)、18/03の実績値については、当該変更後の区分に組替えて記載しております。

(注)電子セグメントのカーエレクトロニクス関連ビジネスを自動車・エネルギーセグメントへ移管しており、当該移管の影響を除いた場合、電子セグメントは前年並みとなります。

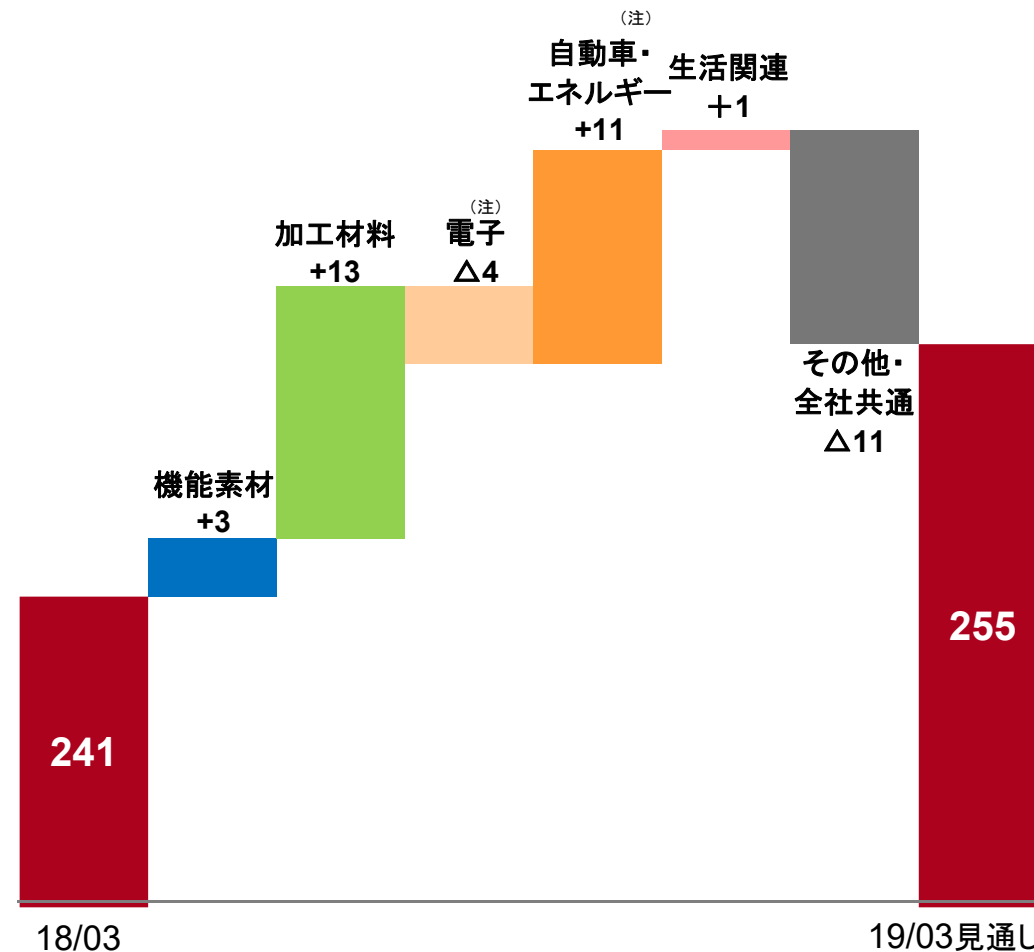
セグメント別営業利益見通し

- 電子を除く全セグメントにおいて増益となり、全体で13億円増益見通し
- 資産の入替(不採算事業からの撤退)に加え、製造・加工事業の収益改善が利益に寄与

セグメント別 営業利益 (億円)



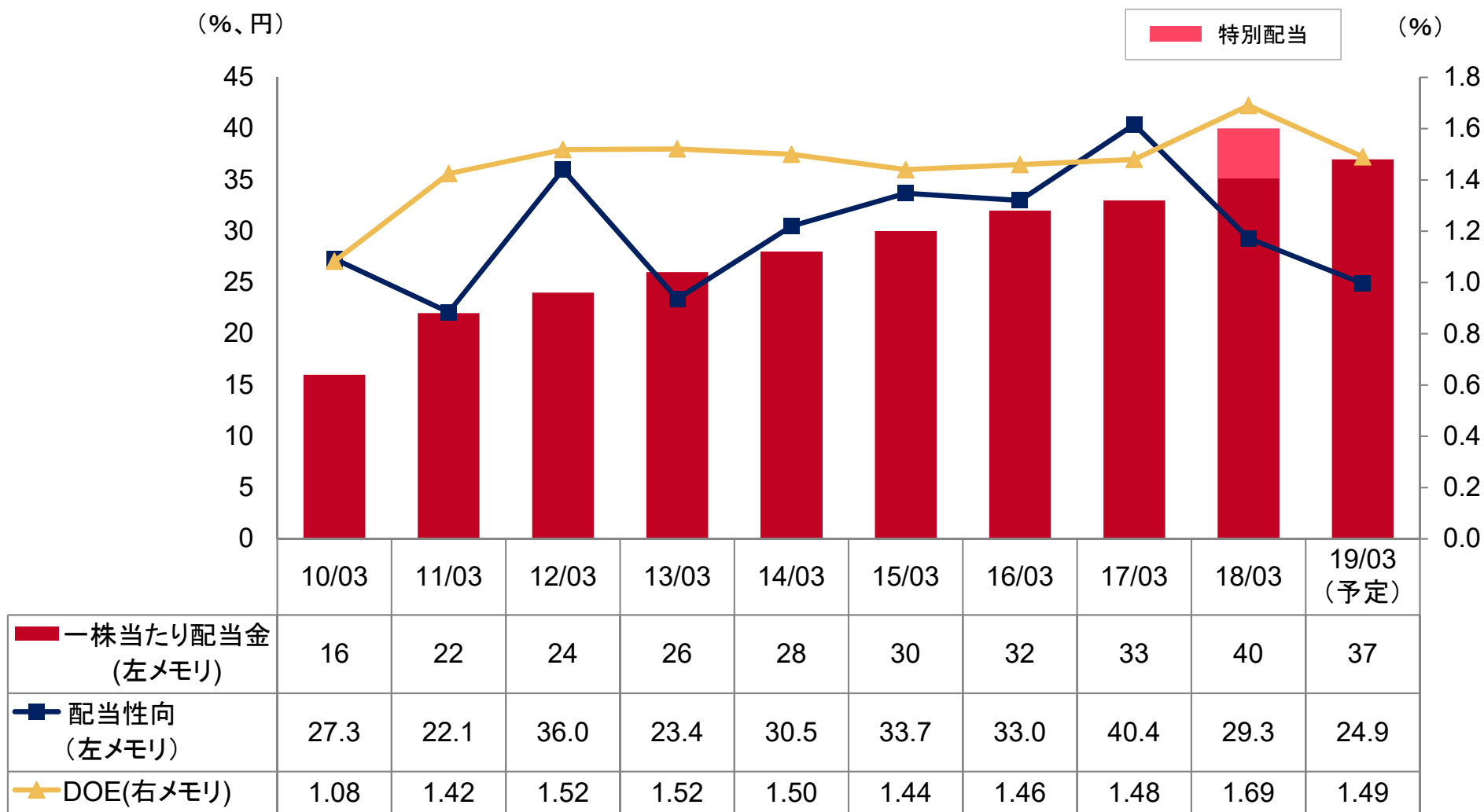
セグメント別 営業利益 増減 (億円)



※当期においてセグメント区分の変更を行っており(機能素材の一部を生活関連へ)、18/03の実績値については、当該変更後の区分に組替えて記載しております。

(注) 電子セグメントのカーエレクトロニクス関連ビジネスを自動車・エネルギーセグメントへ移管しており、当該移管の影響を除いた場合、電子セグメントは前年並みとなります。

■当期: 中間配当金18円、期末配当金19円の年間配当金37円を予定 (普通配当金2円増配)



※19/03 期の期末配当金は、2019年6月開催予定の定時株主総会に附議予定

中期経営計画「ACE-2020」の進捗

Accountability(主体性)・ Commitment(必達)・ Efficiency(効率性)



商社からビジネスをデザインするNAGASEへ

収益構造の変革

注力領域

- 3D Glass Solutions社へ出資
5G通信規格対応高周波製品の展開、半導体事業の拡大を図る
- 林原、ロンザ社 長期パートナーシップ契約締結
プルランカプセル市場拡大に向けた戦略的協力関係の強化

育成領域

- 合弁会社: Infinite Material Solutions社を設立
3Dプリンター熱溶解積層方式の水溶性サポート材フィラメントの製品化を目指す
- Axonerve™、「インテル® FPGAテクノロジー・デイ2018」にて紹介
5G、IoT時代の連想記憶メモリ(CAM)のFPGA実装ソリューションの提供

基盤領域

- 「Tritan™」製食器、サイゼリヤ全店舗で導入
代理店事業、業務用食器市場の拡大

ビジネスデザイナー機能



企業風土の変革

- 中期経営計画ローリング実施
- 海外事業のガバナンス強化、地域統括機能の見直し
- 長瀬ビジネスエキスパート、国内グループ企業へのサービス強化

ガラス薄型加工ビジネス

台湾から中国への生産移管、ノウハウ活用による高付加価値ビジネスへ深化



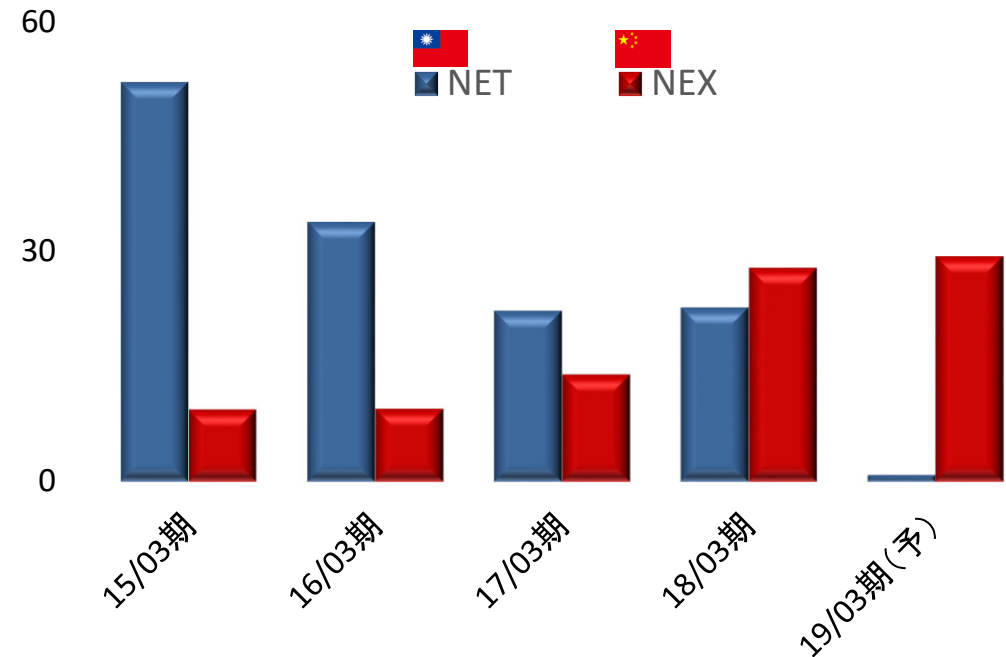
会社名	長瀬電子科技股份有限公司 (NET) Nagase Electronics Technology Co., Ltd.
設立	2005年11月
資本金	230百万NTD (長瀬産業 100%)



会社名	長瀬電子科技(厦門)有限公司 (NEX) Nagase Electronics Technology (Xiamen) Co., Ltd.
設立	2012年12月
資本金	134 百万RMB (NET 100%)



売上高(億円)



【新しいガラス薄型加工ビジネス体制】

- 生産拠点をNEX(中国・厦門)に集約
- 薬液、自動板厚測定等のノウハウ・技術の移管完了
- 金属膜に加え有機膜塗布設備と技術ノウハウを持つ
- 中国ハイエンドスペック市場に対応可能

薄型加工市場のエリアシフト(台湾→中国)

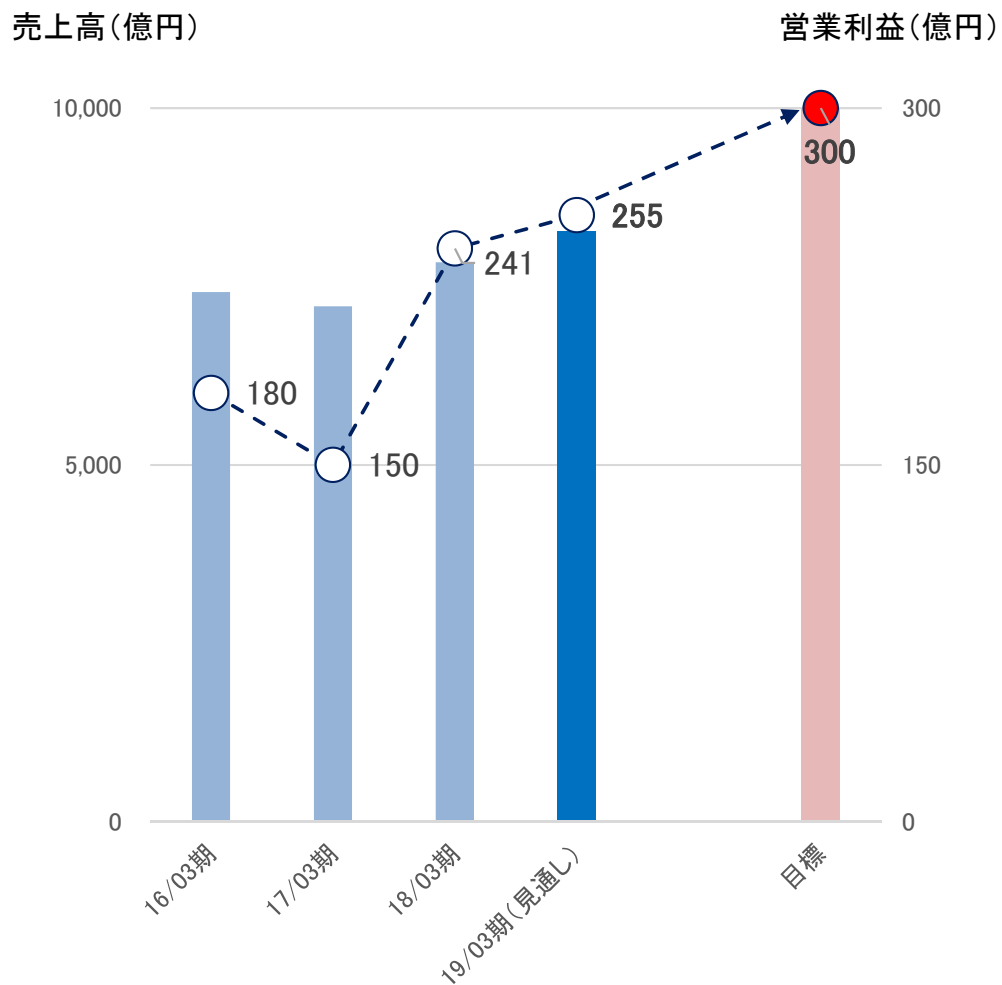
付加価値向上による利益率改善

安定した収益確保

中期経営計画「ACE-2020」のKGI進捗

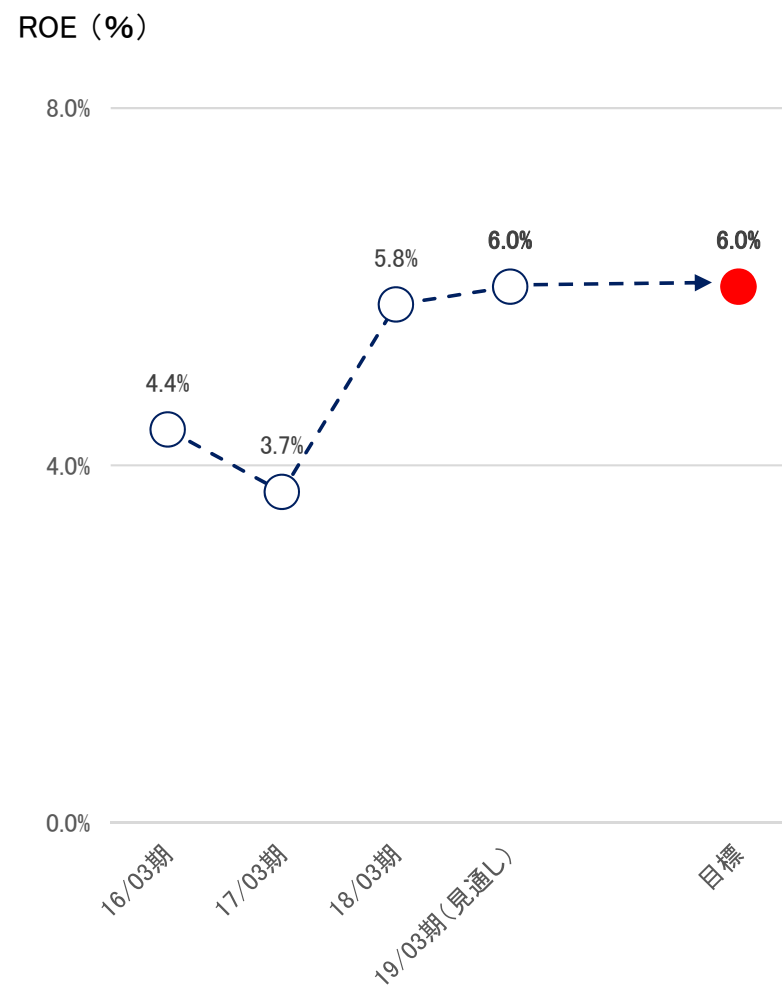
売上高/営業利益

1兆円/300億以上



ROE

6%以上



林原の事業戦略について

株式会社林原 代表取締役社長
安場 直樹

社 名：株式会社 林 原

本 社 所 在 地：岡山市北区下石井1-1-3

日本生命岡山第二ビル新館

創 業：明治16年(1883年)

資 本 金：75億円

従 業 員 数：667名

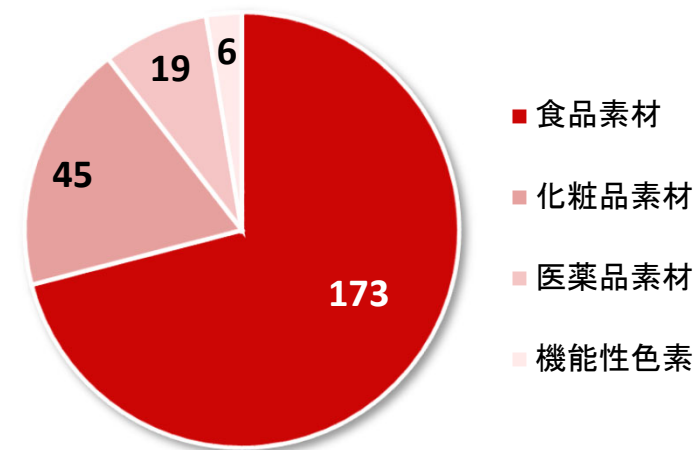
事 業 内 容：食品原料、医薬品原料、化粧品原料、健康食品原料、
機能性色素の開発・製造・販売

売 上 高：243億円(2018年3月期)

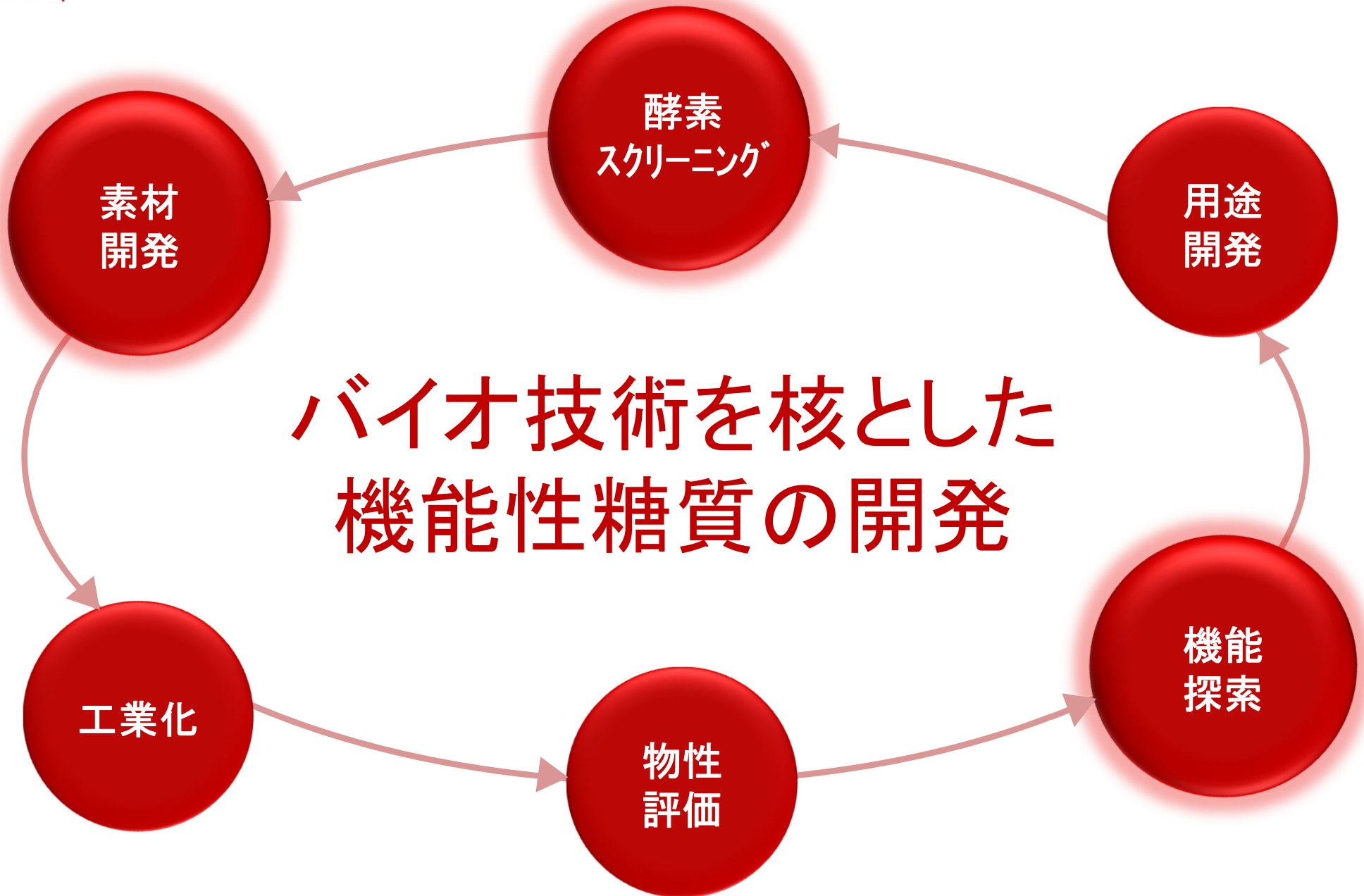
営 業 利 益：50億円(2018年3月期)

株 主：長瀬産業株式会社(2012年2月より100%子会社)

2018年3月期 売上高構成(億円)



(2018.4.1現在)



食品素材



トレハ®



サンマルト®



プルラン



健康食品素材



林原ヘスペリジン®S



ファイバリクサ®



アスコフレッシュ®



化粧品素材



AA2G®



トルナーレ®



アルファグルコシルヘスペリジン



医薬品素材



高純度マルトース



トレハロースSG



ルミン®A



機能性色素



情報記録用色素



情報表示用色素



検査薬用色素



岡山県内事業所

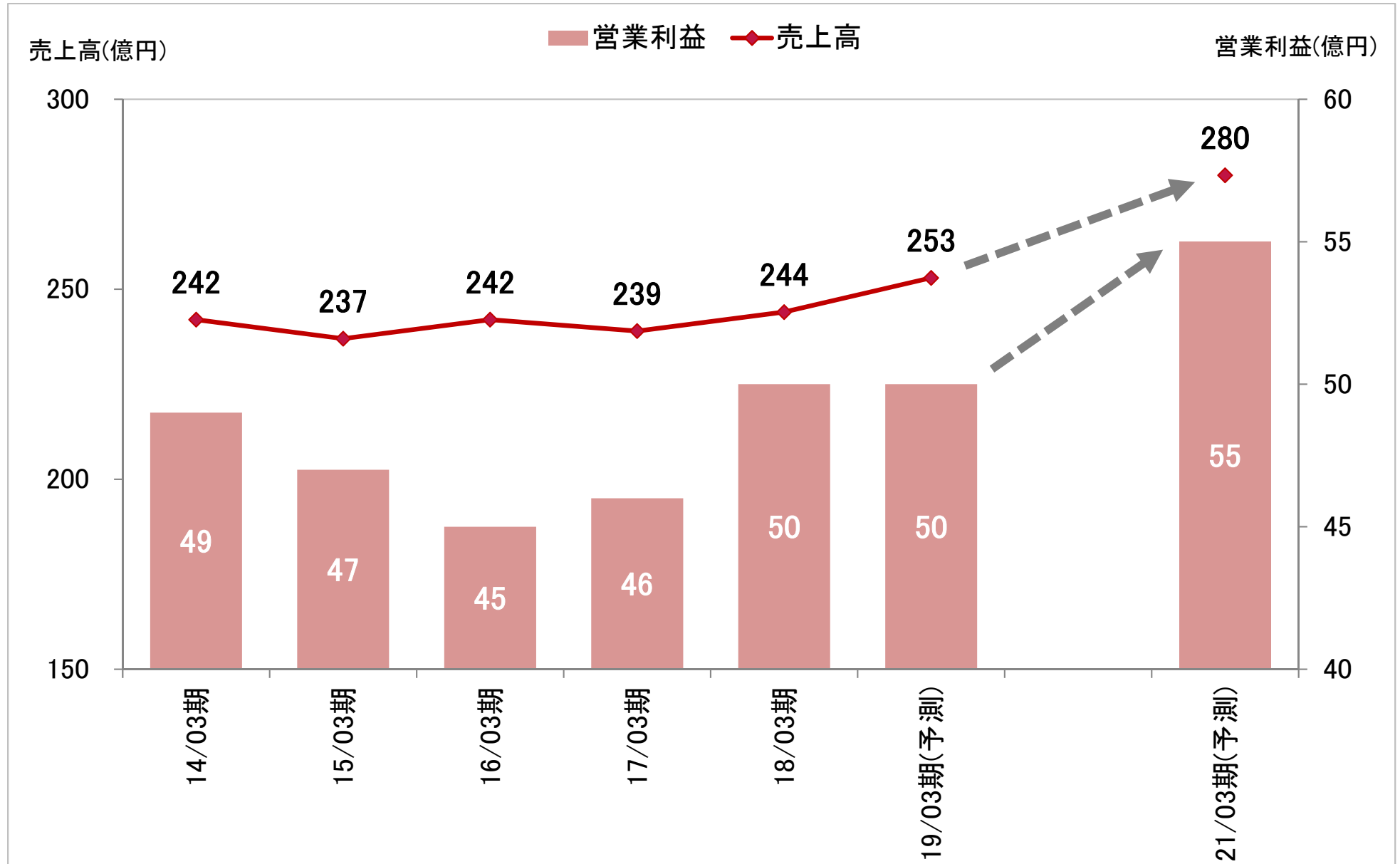


国内営業拠点

L'プラザ
各種糖質の食品向け用途開発や分析、情報発信などを担い、営業をサポートする。



業績推移



重点施策



海外展開:事業基盤の再構築
国内販売強化:インバウンド需要への対応



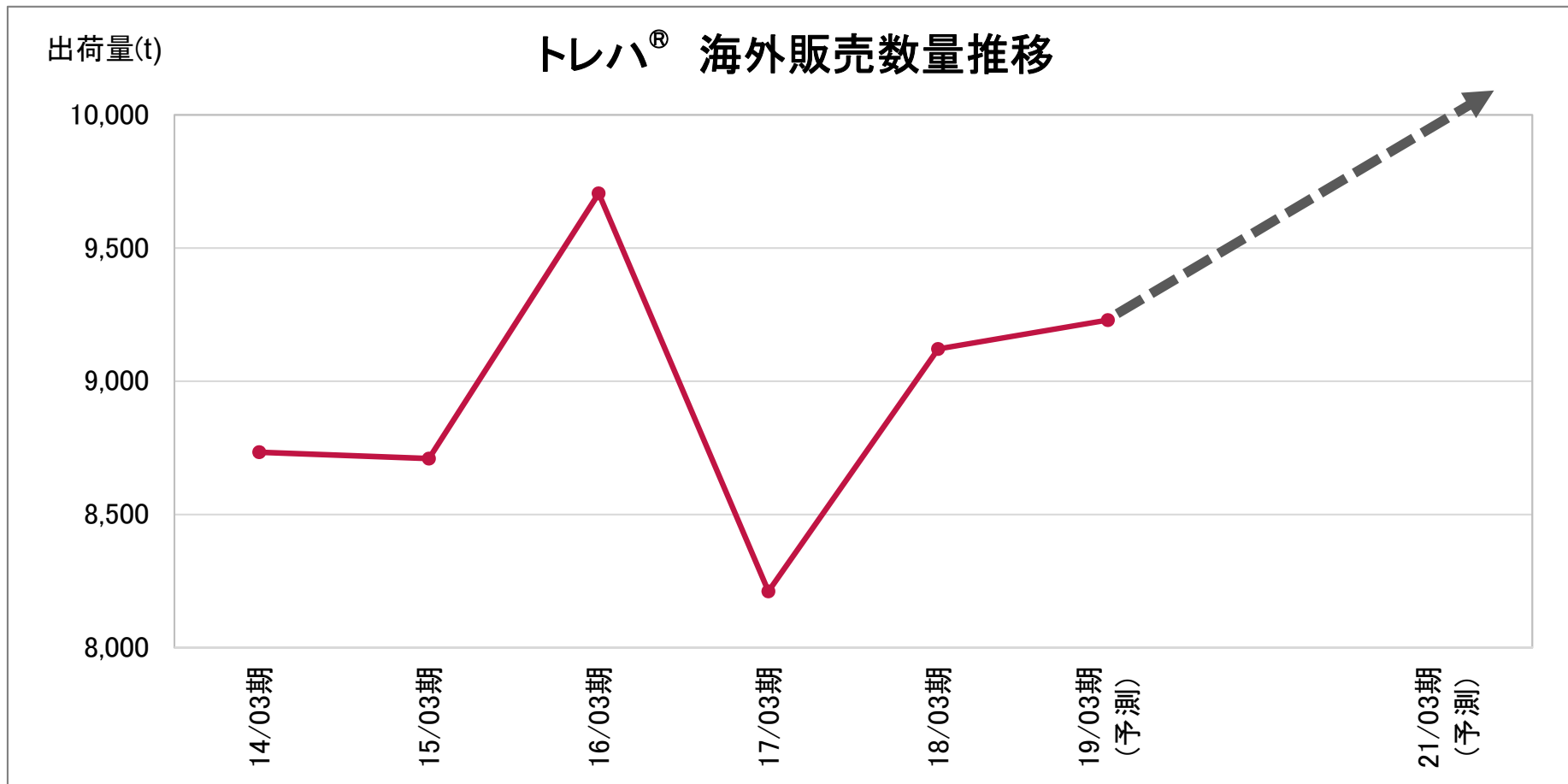
機能性表示食品への採用拡大



新素材投入(アンチエイジング市場へ)



プルラン:海外大手顧客との協業加速



- 認知度不足
- 代理店への依存
- ソリューション提案の不足



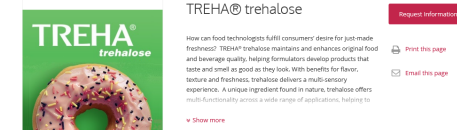
欧州

- ・代理店政策見直し
- ・大手顧客との関係強化
- ・フランス、スペイン、イタリア
マーケットへの注力



中国・ASEAN

- ・海外版L'プラザ立ち上げ
- ・提案力強化による
競合品との差別化



Product Applications

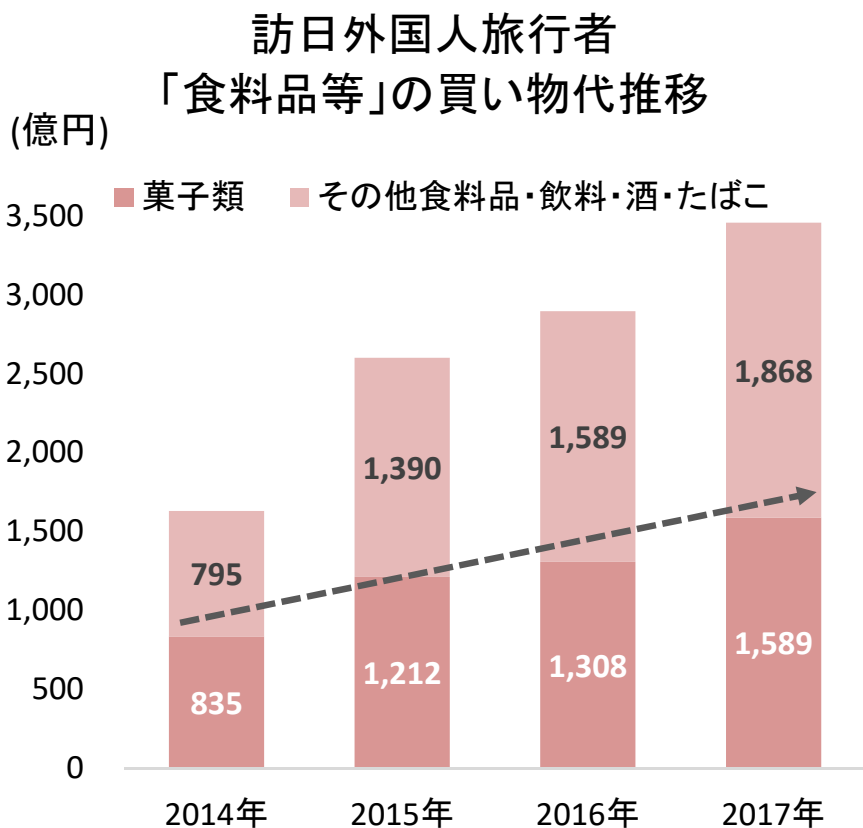


北米

- ・代理店政策見直し
- ・IT活用による
製品情報発信
- ・海外版L'プラザ立ち上げ

エリア毎の体制強化 ⇒ リソースの配置
ソリューション提案強化 ⇒ 海外版L'プラザ設立
将来の海外生産に向けた検討

国内成長分野であるインバウンド需要への対応 全国の主要土産菓子への提案を強化



主要土産菓子へのトレハ[®]の
機能提案強化、採用拡大へ

「トレハロース」の認知度向上
～味・品質の良さの共通項～

海外食品企業のトレハ[®]への注目

出所：農林水産省「平成29年訪日外国人旅行者の食料品等の購入状況について」

林原ヘスペリジン[®]S：採用実績の水平展開を強化

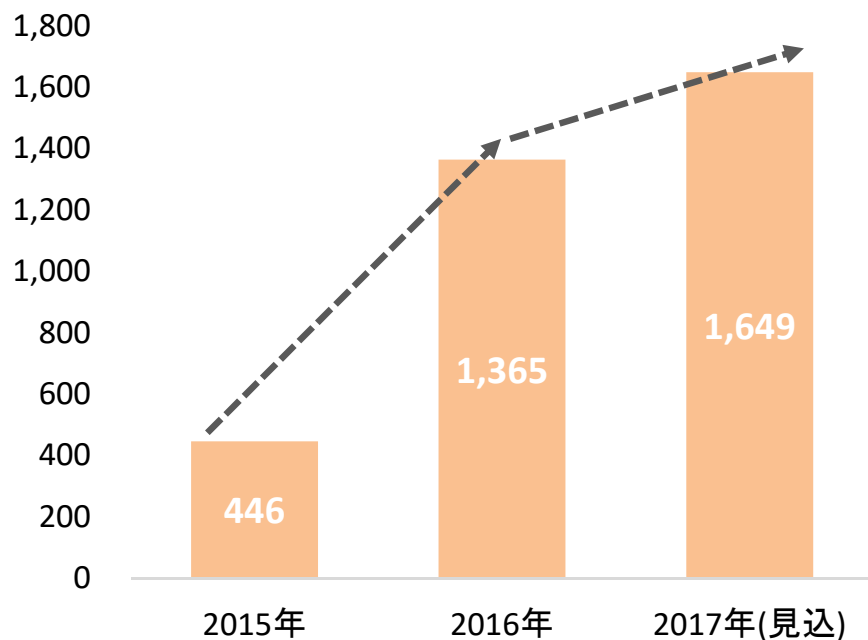
ファイバリクサ[®]：3大クレームのエビデンス準備～顧客への展開を強化

※3大クレーム：整腸、血糖上昇抑制、食後の中性脂肪上昇抑制

機能的表示食品 市場規模推移

(メーカー出荷金額ベース)

(億円)



出所：矢野経済研究所「プレスリリース 健康食品市場に関する調査を実施(2018年)」

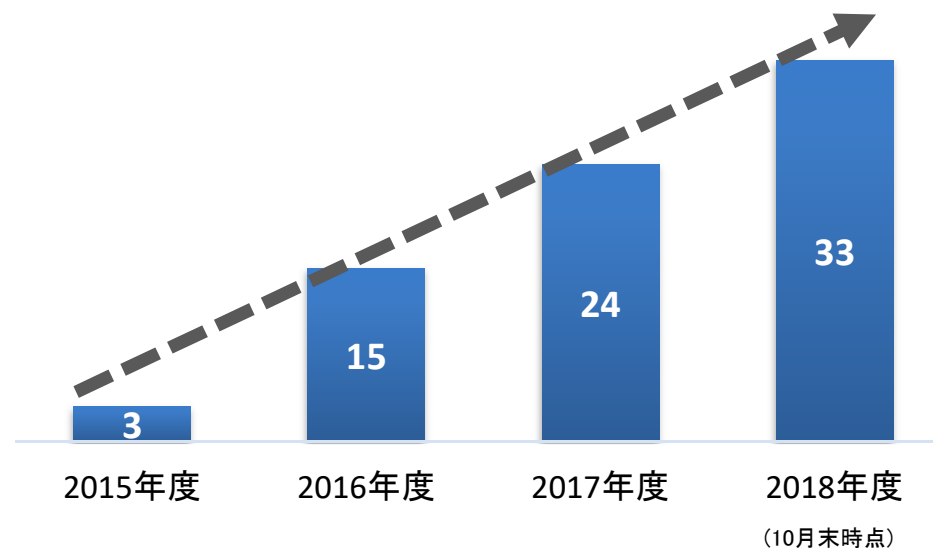


▲林原ヘスペリジン[®]S



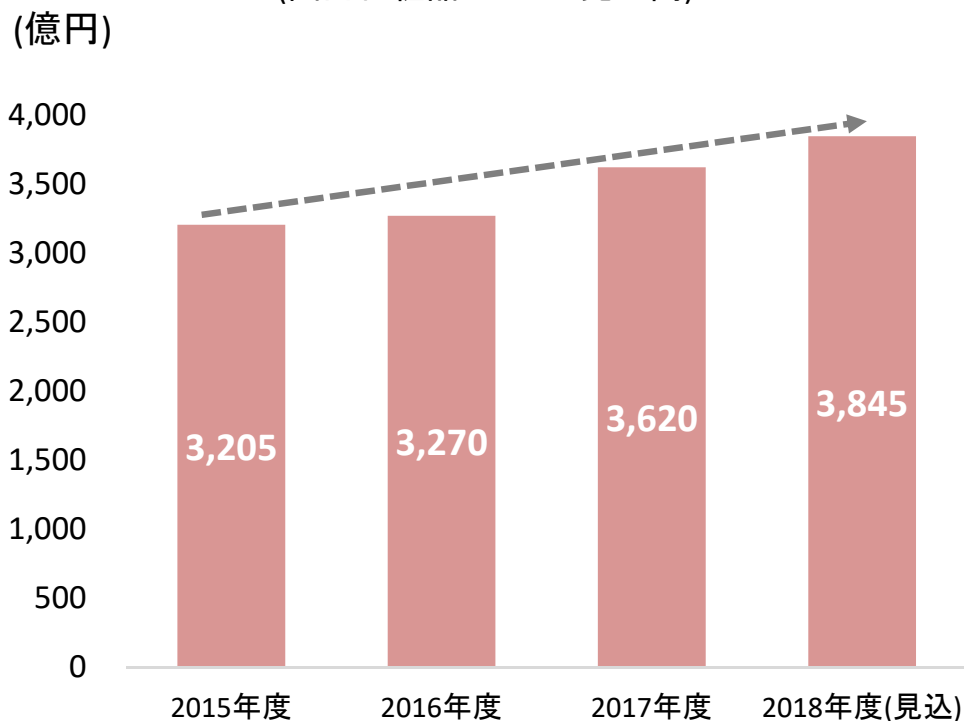
▲ファイバリクサ[®]

当社素材 機能的表示食品への採用件数 (延べ件数)



植物由来の新素材を市場投入（来春予定）

アンチエイジング化粧品 市場規模推移
(国内化粧品メーカー売上高)



出所：TPCマーケティングリサーチ「アンチエイジング化粧品市場について調査結果を発表」

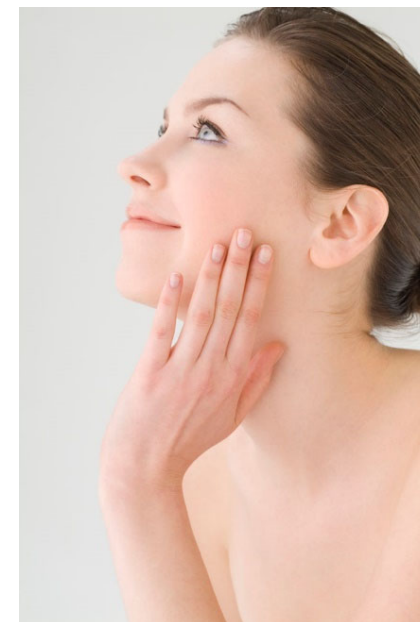
植物由来原料



林原の研究開発



アンチエイジング新素材



プルランカプセルの市場拡大に向けた ロンザ社(本社 スイス/バーゼル)との長期パートナーシップ契約締結

サプリメント市場における
植物由来原料へのニーズ拡大

プルランカプセルへの需要拡大

林原プルランの長期供給契約
および
新製品の共同開発



▲2018年9月25日 林原での調印式
(右) エラスモ・シュツアー (ロンザ社 コンシューマーヘルス プレジデント)
(左) 安場直樹 (林原 代表取締役社長)

設備投資：新工場「岡山第二工場 P棟」

酵素およびプルランを製造するP棟の建て替え・拡張を決定
2019年年初の着工を予定

完成イメージ



安定した酵素供給と将来の事業拡大に対応

研。

まさに刀を研ぐのと
バイオはよく似ています。

刀匠によって鍛え上げられ、命を吹き込まれた刀剣。その魅力を引き出すため、精巧な技術を持つ研ぎ師が、刀と対話しながら少しずつ少しずつ研ぎ澄ましてゆく。林原のバイオの研究開発も同じです。日々研鑽を重ねている研究員が、素材と向き合い、対話しながら研究に取り組んでいます。一見、同じことの繰り返しのように思えるかもしれませんが、ですが、一歩ずつ一歩ずつ着実に前に進んでいる。その歩みが、明日の健康と幸福につながると信じて。

暮らしを彩るスマートバイオ

株式会社 林原
NAGASE Group

www.hayashibara.co.jp

10月8日は、トレハロースの日。

研。

まさに刀を研ぐのとバイオはよく似ています。

刀匠によって鍛え上げられ、命を吹き込まれた刀剣。その魅力を引き出すため、精巧な技術を持つ研ぎ師が、刀と対話しながら少しずつ少しずつ研ぎ澄ましてゆく。林原のバイオの研究開発も同じです。日々研鑽を重ねている研究員が、素材と向き合い、対話しながら研究に取り組んでいます。一見、同じことの繰り返しのように思えるかもしれませんが、ですが、一歩ずつ一歩ずつ着実に前に進んでいる。その歩みが、明日の健康と幸福につながると信じて。

(参考資料)セグメント別概況

<所在地別売上高・営業利益>

(億円)

	18/03期		19/03期				
	中間	通期	中間	前年同期比	通期見通し	前期比	
売上高	国内	785	1,617	826	105%	1,700	105%
	海外	271	565	297	109%	579	102%
	連結調整	▲213	▲433	▲227	-	▲442	-
	合計	844	1,749	896	106%	1,837	105%
営業利益	国内	19	40	20	106%	41	103%
	海外	7	16	7	99%	16	97%
	連結調整	▲0	▲5	▲1	-	▲2	-
利益	合計	26	51	27	101%	55	107%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。(のれん等の償却含む)

※当期においてセグメント区分の変更を行っており(機能素材の一部を生活関連へ)、18/03期の実績値については、当該変更後の区分に組替えて記載しております。

2019年3月期 第2四半期実績

売上高

896億円(106%)

- ◆機能化学品事業は、自動車生産台数の堅調な推移やナフサ価格の上昇等により、塗料およびウレタン原料の売上が増加したことに加え、前第2四半期連結会計期間中に米国のディストリビューターを買収したこともあり、事業全体として増収
- ◆スペシャリティケミカル事業は、海外では売上は横ばいで推移したものの、国内では半導体関連等の電子業界向けを中心としてエレクトロニクスケミカル、樹脂原料・添加剤の売上が増加したことから、事業全体として増収

営業利益

27億円(101%)

- ◆増収により、増益

2019年3月期 通期見通し

- ◇下期も引き続き、自動車生産台数の増加等もあり、塗料およびウレタン原料の売上が増加。更に半導体関連等の電子業界向けにエレクトロニクスケミカルの売上が増加する等、全体として好調に推移し、通期で増収増益見通し

<所在地別売上高・営業利益>

(億円)

	18/03期		19/03期				
	中間	通期	中間	前年同期比	通期見通し	前期比	
売上高	国内	813	1,661	888	109%	1,831	110%
	海外	809	1,596	900	111%	1,758	110%
	連結調整	▲304	▲628	▲374	-	▲699	-
	合計	1,318	2,628	1,414	107%	2,890	110%
営業利益	国内	19	38	27	141%	43	111%
	海外	16	29	20	122%	37	127%
	連結調整	▲0	▲1	▲2	-	+0	-
	合計	35	67	46	129%	80	120%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。

2019年3月期 第2四半期実績

売上高

1,414億円(107%)

- ◆カラー&プロセッシング事業は、国内における工業用および包装材料用の合成樹脂、顔料・添加剤の売上および国内外における情報印刷関連材料等の売上が増加したことから、事業全体として増収
- ◆ポリマーグローバルアカウント事業は、国内、グレーターチャイナおよびアセアンにおいて売上が増加したことから、事業全体として増収

営業利益

46億円(129%)

- ◆増収に加え、製造子会社における収益性の改善等により、増益

2019年3月期 通期見通し

- ◇国内外における樹脂販売および情報印刷関連材料等の売上が増加し、通期で増収増益見通し

<所在地別売上高・営業利益>

(億円)

	18/03期		19/03期				
	中間	通期	中間	前年同期比	通期見通し	前期比	
売上高	国内	650	1,297	608	94%	1,283	99%
	海外	385	753	368	95%	697	93%
	連結調整	▲379	▲757	▲358	-	▲745	-
	合計	657	1,293	618	94%	1,235	95%
営業利益	国内	24	49	23	97%	48	96%
	海外	19	40	17	87%	37	92%
	連結調整	▲0	▲1	▲0	-	▲1	-
	合計	43	89	40	93%	84	95%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。(のれん償却含む)

2019年3月期 第2四半期実績

売上高

618億円(94%)

- ◆電子化学品事業は、半導体業界向け等の変性エポキシ樹脂関連や装置関連の売上は好調に推移したものの、フォトリソ材料の売上が減少したことにより、事業全体として微減
- ◆電子資材事業は、半導体中間工程用の研磨剤関連ビジネスは堅調であったものの、ディスプレイ関連部材の売上が減少したことから、事業全体として減収

営業利益

40億円(93%)

- ◆減収により、減益

2019年3月期 通期見通し

- ◇自動車・エネルギーセグメントに一部事業を移管しており、当該移管の影響を除くと、売上・利益ともに前年並みの見通し
- ◇下期、モデルチェンジ等の影響もあり、ディスプレイ関連部材の売上が減少するものの、エポキシ樹脂および装置関連ビジネスが引き続き好調に推移し、更にフォトリソ材料が顧客の稼働率向上および新規ビジネスの立上り等もあり回復する見通し

<所在地別売上高・営業利益>

(億円)

	18/03期		19/03期				
	中間	通期	中間	前年同期比	通期見通し	前期比	
売上高	国内	316	674	377	119%	795	118%
	海外	416	840	425	102%	875	104%
	連結調整	▲106	▲218	▲121	-	▲245	-
	合計	627	1,297	682	109%	1,425	110%
営業利益	国内	2	2	4	222%	12	425%
	海外	12	21	9	80%	23	109%
	連結調整	▲0	▲0	0	-	▲0	-
	合計	14	24	14	104%	35	147%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。

2019年3月期 第2四半期実績

売上高

682億円(109%)

◆自動車材料事業は、国内、グレーターチャイナおよびアセアンにおいて樹脂ビジネスが好調に推移したことに加え、カーエレクトロニクス関連部材の売上が増加したこと等により、事業全体として増収

営業利益

14億円(104%)

◆増収により、増益

2019年3月期 通期見通し

◇電子セグメントから一部事業の移管を受けており、当該移管の影響を除いても、増収増益見通し

◇下期、上期と比較し自動車生産台数が増加する見込みであること等により、国内外における高機能素材・カーエレクトロニクス関連部材の販売が好調に推移し、更に製造子会社における損益改善等も寄与し、通期で増収増益見通し

<所在地別売上高・営業利益>

(億円)

	18/03期		19/03期				
	中間	通期	中間	前年同期比	通期見通し	前期比	
売上高	国内	497	1,006	495	100%	1,033	103%
	海外	68	135	64	94%	140	104%
	連結調整	▲140	▲276	▲129	-	▲287	-
	合計	424	865	429	101%	886	102%
営業利益	国内	36	70	34	94%	69	99%
	海外	1	3	2	171%	5	167%
	連結調整	▲15	▲31	▲16	-	▲31	-
	合計	23	42	21	93%	43	104%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。(のれん及び技術資産等の償却含む)

※当期においてセグメント区分の変更を行っており(機能素材の一部を生活関連へ)、18/03期の実績値については、当該変更後の区分に組替えて記載しております。

2019年3月期 第2四半期実績

売上高

429億円(101%)

- ◆食品素材分野において、トレハ®等の売上は海外では減少しましたが、国内では微増。スキンケア・トイレタリー分野では、AA2G®が国内外で売上が増加。医療・医薬分野では、医薬品原料・中間体・医用材料および製剤事業の売上が微減。事業全体として、売上は横ばい
- ◆ビューティケア製品事業は、全般的に販売が低調であったことから、事業全体として減収

営業利益

21億円(93%)

- ◆一部の国内製造子会社における売上の減少および先行投資費用の計上等もあり、減益

2019年3月期 通期見通し

- ◇下期、医療・医療分野に係るビジネスは売上が減少するものの、トレハ®の販売が増加し、更にスキンケア・トイレタリー分野向け原料販売も好調に推移し、通期で増収増益見通し



<https://www.nagase.co.jp/>

当プレゼンテーション資料には、2018年11月30日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。